

日交研シリーズ A-759

平成 30 年度自主研究プロジェクト

包括的富における交通インフラの基礎的研究プロジェクト

刊行：2019 年 10 月

地域における包括的な資本の測度に関する考察
a study of comprehensive capital measures in the region

主査：庭田 文近（城西大学現代政策学部准教授）

NIWATA, Fumichika

要 旨

国際連合は、2012 年に開催した持続可能な開発会議（リオ+20 サミット）において、持続可能性を踏まえた真の豊かさを捉える新たな指標として、「新国富指標（IWI： Inclusive Wealth Index）」を提唱した。新国富指標は、市場を通じた経済価値のみならず生態系ないしは環境さらには人々の健康といった非市場価値をも内包する指標であり、また人的資本・生産資本等だけでなく自然資本の変化を捉えることで持続可能性を評価しうるものである。

東京の一極集中の弊害そして地方創生が叫ばれている現在、我が国において、東京および地方ごとに真の豊かさ・持続可能性を評価することは重要である。そこで、本研究では、我が国の地域ごとの包括的な資本の評価の基礎として、新国富指標の理論および方法について整理を行い、その中でも特に地域住民の福祉と持続可能性に大きく影響しうるであろう交通インフラストラクチャーと環境の扱いについて検討を加えてきた。

本冊子は、そのプロジェクトの 1 年間の成果として、自治体単位ではなく都市圏の単位で、持続可能性評価のための資本の測度および多面的な指標について検討している。すなわち、包括的な資本の概念に基づいた都市雇用圏単位の資本の測度についての考察、都市圏における包括的な資本の指標化を巡る議論、そして多面的な指標による評価についての検討および都市圏の包括的な資本によるランクの試算を収めている。

キーワード：包括的富指標、都市雇用圏、資本、持続可能性

Keywords : Inclusive Wealth Index, Urban Employment Area, Capital, Sustainability